



日野町地域おこし協力隊活動記

日野町では、平成27年度から谷口智哉さんと鵜瀬ゆりさんの2名が地域おこし協力隊として活動しています。

このコーナーでは、地域に根ざし、新たな風を吹き込む隊員とその活動、想いを紹介します。



うのせ 鵜瀬 ゆりさん

今年の1月に開催された「ふるさとの食まつりin日野」。実行委員の一人として参加していますが、今年度も開催が決定しました！
それに先立ち、8月26日にプレイベントとして滋賀の食事文化研究会の中村紀子先生の講演を開催



たにぐち ともや 谷口 智哉さん

昨年7月に機関紙「ひのせいねん」の取材を受けてから、OB・OGを含めて何かと縁のある日野町連合青年会様。9月23日にはその連青のメンバーに日野町を「再発見」していただくと思いい、日野商人館や近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

を巡るまちなか観光をさせていただきました。と言ってもほとんどが松尾や大窪、西大路に生まれ育った方だったのでお誘いはしたものの、今さら「再発見」するものがあるか心配でした。
しかし、実際始まってみると道中



しました。受け継がれてきた食の大切さ、貴重さ、滋賀県には風土に根ざした食文化が伝統行事とともにたくさん残されていることを再認識する機会となりました。
最近では「食べ物」は商品として、ただ消費の対象になっているように感じます。季節や風土を感じて食し、生きる営みとしての「食」を見直すとともに、「ふるさとの食」「日野町での昔ながらの食」を作る機会を増やすことで、次の世代へつなげるきっかけをこの活動を通して作っていければと思います。

では「子どものころに何回も通っているけど、知らなかった」「近くに住んでいて初めて知った」という言葉も聞きました。また、日野商人館の満田館長の説明ではみんな一斉に「へえ〜」という場面もありました。当初の目的である「再発見」も十分にいただけたと思います。
今回のコースをはじめ、日野を観光するツアーや体験「日野一期一会」も11月から始めていますので、ぜひ町民の皆様にはこれを機に地域の魅力を「再発見」のきっかけにしてくださいと思います。

第二回の「ふるさとの食まつりin日野」は平成30年1月28日開催予定です。一緒に実行委員をしてくださる方も随時募集中です。興味のある方はふるさとの食まつりin日野のFacebookページからメッセージまたは下記へご連絡ください！



各団体などから隊員へ講演などを依頼される場合は、事前に役場商工観光課までお問い合わせください。

隊員の活動は、日野町ホームページでも確認できます。

これからも地域で活躍する地域おこし協力隊にご期待ください！

問い合わせ先 ◆ 商工観光課 商工観光担当 ☎0748-52-6562

日野町におられる医師・歯科医師・薬剤師などの方々から町民の皆さんへ
医療や公衆衛生の面からアドバイスいただくシリーズです

「消化器のがん」のおはなし

日野記念病院 医師 仲成幸さん

3人に1人ががんで亡くなり、2人に1人が生涯のうちにかんにかかると言われていました。国立がん研究センターの予測では2017年に全国で37万8千人ががんで亡くなり、部位別では肺、大腸、胃、膵臓、肝臓の順になっています。一方、罹患数（新たにがんにかかる人数）は101万人で、大腸、胃、肺、乳房（女性）、前立腺の順です。

がんの患者さんは年々増加していますが、実は人口の高齢化が大きな影響を与えています。高齢化の影響を除いた年齢調整率で見ると、がんによる死亡は1990年代半ばをピークに減少しています。ただ、罹患数は増加しており、男性では食道、膵臓、前立腺、甲状腺、悪性リンパ腫、女性では食道、結腸、直腸、肺、乳房、子宮、卵巣、甲状腺、悪性リンパ腫が増加しています。死亡数と罹患数で上位を占める消化器のがんについて簡単に説明します。

大腸がんの症状は便秘や下痢を繰り返したり、便に血が混じったり、便が細くなるなどといったものがあります。大腸がんの早期発

見には便潜血検査や大腸内視鏡検査が有効です。胃がんは早期にはほとんど症状は無く、進行すれば胃の不快感や痛み、食欲不振などの症状が現れます。胃のX線透視検査や胃内視鏡による検診が有効です。膵臓がんは初期には症状が無いことが多く、進行すると、腹痛や背部痛、黄疸を来すこともあります。膵臓がんは増えています。糖尿病、慢性膵炎や肥満が危険因子として挙げられている他、喫煙も関与が指摘されています。肝臓がんは通常症状は無く、多くはC型肝炎やB型肝炎が原因で、アルコール性肝炎や近年増加している脂肪肝炎なども原因となります。肝がんの予防にはこれらの肝炎を適切に治療することが重要です。がんは身近な病気となっていますが、早期発見により十分に治癒が望めますし、治療法の進歩も目覚ましく治療成績も向上しています。

がんの患者さんは年々増加していますが、実は人口の高齢化が大きな影響を与えています。高齢化の影響を除いた年齢調整率で見ると、がんによる死亡は1990年代半ばをピークに減少しています。ただ、罹患数は増加しており、男性では食道、膵臓、前立腺、甲状腺、悪性リンパ腫、女性では食道、結腸、直腸、肺、乳房、子宮、卵巣、甲状腺、悪性リンパ腫が増加しています。死亡数と罹患数で上位を占める消化器のがんについて簡単に説明します。



日野記念病院 日野町上野田200番地1 ☎0748-53-1201

感雑向綿

2017年11月

日野町長 藤澤直広

10月1日(日)、日野駅再生事業による駅舎再生が竣工しました。竣工式は、駅にはいつて左側に設けた観光案内交流施設「なないろ」(公募による岡雅子さんの命名)で、地元の方々と近江鉄道など関係者の皆さんに参加いただきました。日野高校音楽部の合唱、しゃくなげ大使が一日駅長に任命され記念電車の切符を改札、日野ウインドアンサンブルのファンファーレでくす玉割り。そして電車が出発。日野川の鉄橋を渡り、清水山トンネルを抜けます。清水山トンネルはレンガ造りで明治の開業時につくられたままの姿です。田園地帯を走ると水口の市街地へ、やがて野洲川の鉄橋を渡り貴生川駅に到着。中学・高校時代に貴生川駅で接続する国鉄草津線で大津市皇子山陸上競技場へ行くのに利用しました。まだSL蒸気機関車D51が客車を引っ張り活躍していました。県庁に就職したときは、京都の大学に通う友人と毎日一緒でした。たくさんの人たちが利用してきた近江鉄道。通学、通勤、見送り、迎え…それぞれの人の心に情景が残っています。いろいろな思い出をつなぎ、駅舎再生にたくさんのご寄附をいただいています。心より感謝申し上げます。引き続き、上りホームの改築へご支援をお願いいたします。

ところで、10月1日は、117年前1900年(明治33年)に日野駅に列車が最初にやってきた日です。明治の「近代化」がこの町にも波及してきた象徴だったのかもしれない。1916年(大正5年)駅構内が複線化され現在の駅舎が建設され101年目になります。この百年余の歴史の中には、戦前、この駅から出征し(戦場にゆき)、白木(遺骨)で帰還された方も少なくありません。戦後は、平和憲法の下での戦いの戦死者もありません。11月3日は文化の日、日本国憲法公布の日。「自由と平和を愛する文化国家」の建設を誓った日です。菊香かおる晩秋、今年も町内で文化祭が開催されます。自由と平和が花開く社会をつくるために力を合わせましょう。

獣の生態・特徴について

獣害対策は、野生獣の生態や防除対策の正しい知識をもって集落ぐるみで実施していくことが効果的です。今回は、シカ・イノシシ・サルの3獣種に関する「獣の生態・特徴」についてご紹介します。

ニホンジカ

- ・1年に1頭出産。
- ・メスは栄養条件が良ければ、満1才で性成熟し80%が妊娠。
- ・植物性の食べ物なら何でも食べる。
- ・1日あたり約3kg程度のエサを食べる。
- ・助走なしで150cm以上の跳躍力があるが、着地点の安全が確認出来る場合にしか飛び越えず、基本的には柵の下を潜り抜けることが多い(柵と地際の隙間が15cmから20cmあれば侵入できる)。
- ・農作物や餌付けなどにより栄養状態が良くなると幼獣の死亡率低下や寿命が延びる。



イノシシ

- ・1年に約4頭から5頭出産し、生後1年ほどで繁殖が可能。
- ・本来は昼行性だが、警戒心が非常に強いため人間が活動している時間帯は身を隠し、日没から夜明けにかけて活発に行動する。
- ・雑食性で人間が食べるものは何でも食べる。
- ・助走なしで120cmの跳躍力を持つが、着地点の安全が確認できる場合にしか飛び越えず、基本的には柵の下を潜り抜ける(柵と地際の隙間が20cmあれば侵入できる)。
- ・鼻の力で約70kgの重さを持ち上げる怪力。
- ・体毛は剛毛で電気を通しにくく、鼻と腹以外は殆ど感電しない。
- ・農作物や餌付けなどにより栄養状態が良くなると幼獣の死亡率低下、出産頭数の増加、寿命が延びる。



ニホンザル

- ・野生では、初産は6歳から7歳で、3年程度に1頭出産するが、農作物や餌付けなどにより栄養状態が良くなれば初産年齢が早まったり、出産間隔が短くなる。
- ・野生での寿命は20年程度だが、栄養状態が良くなるとさらに長生きする。
- ・群で行動し、なわばり意識が強く、一定の採食場所を行動する。
- ・群の動きは成獣のメスが支配している(母系社会)。オスは4歳から5歳で生まれた群を離れる(ハグレザル)。
- ・群は10頭から100頭程度で、群が大きくなると分裂する。
- ・昼行性で夜は活動しない。
- ・水平方向に約2mから3m跳べる。
- ・記憶力は抜群で、一度味わった恐怖は忘れない。その出来事が起こった場所や状況もよく記憶している。



「獣が食べていたら怒るエサ、怒らないエサ」

獣のエサには2種類のエサがあります。一つ目は水稲や野菜などの農作物で、獣が食べていたら人間は怒るエサです。二つ目は畑に放置されている野菜ワズや放棄果樹、水稲のヒコバエなどで人間には不要なものであり、獣が食べていても怒らないエサです。どちらのエサも獣にとっと同じ栄養のあるエサであり、食べられる環境が集落にあれば獣はその集落を「エサが食べられる集落」と認識し何度も集落を訪れ被害を発生させます。二つ目のエサは無意識的に獣を集落に引き寄せており、防護柵や追い払いを行ってもいまひとつ効果が出ないこととなります。

このような誘引物等を確認する作業として日野町有害鳥獣被害対策協議会では集落環境点検(H29.8広報ひので掲載)を集落と一緒に実施しておりますので、実施の際はご相談ください。

**日野町
有害鳥獣被害対策
協議会とは**

鳥獣による農林被害を食い止めるため、取組地域の代表、JA、森林組合、猟友会、農業共済組合、県、農業委員会、町で構成された組織です。野生鳥獣の捕獲や被害防除の対策についての助言や技術紹介、研修など、集落ぐるみの獣害対策を支援しています。*獣害対策アドバイザーが集落からの相談に応じています。

*滋賀県から認定を受けた者で、集落ぐるみの獣害対策について助言等を行います。

次回の獣害対策シリーズは、広報ひの2月号へ「基本的な防除対策について」を掲載します。